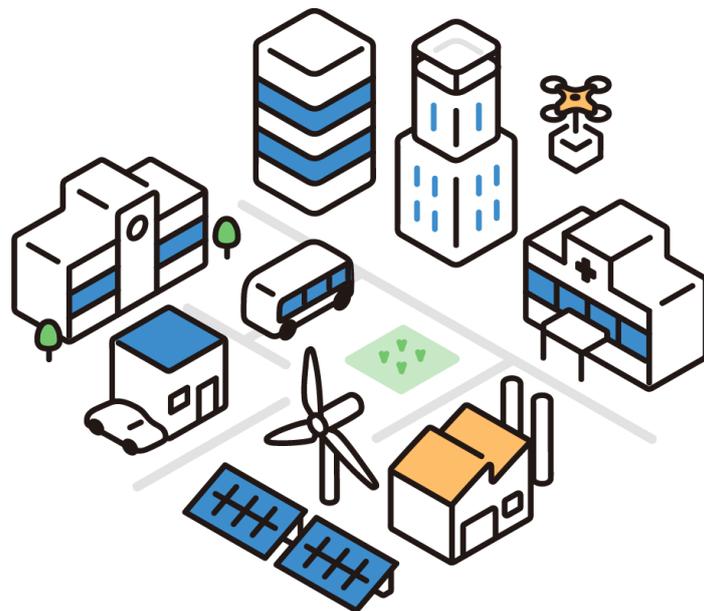


# 自分ごと化会議からの 5つの提案

## ～地域交通～



令和7年2月6日

「多度津町自分ごと化会議」委員一同

## 内容

～ はじめに ～	- 2 -
I 「多度津町自分ごと化会議」の概要	- 3 -
～ 自分ごと化会議からの5つの提案 ～	- 5 -
II 「これから」の地域交通について検討すべき視点	- 6 -
III「いま」の地域交通の課題整理と改善提案	- 10 -
IV このまちのためにどう行動するか	- 18 -
V自分ごと化会議に参加して、変化したこと	- 20 -

## ～ はじめに ～

多度津町では、マイカーに依存したライフスタイル等を背景に、路線バスなどの公共交通網の提供がされていません。しかし、高齢者の運転免許証自主返納の動きが進展するなか、免許返納後の生活への不安や利便性の低下について心配の声が上がっています。さらに、共働き世帯比率が高まったことにより、高齢者等の通院、児童の通学・習い事など送迎に関する家族の負担が増している一方で、核家族化やコミュニティの希薄化などにより、これまでのように気軽に車による移動を依頼することをためらう状況も指摘されるなど、移動手段に関する不安やニーズは年々高まってきています。

一方、公共交通事業者を取り巻く環境は、長期的な利用者減や新型コロナの影響、物価高騰などによる経営環境の悪化など、従来のサービス水準を維持することが困難な状況となっており、さらに地域交通の担い手や運転手不足といった供給面での課題も顕在化するなど、地域交通を取り巻く環境が厳しさを増していると感じています。

日本全体を見渡しても、地域交通は喫緊に対応すべき課題とされ、国においては日本版ライドシェアの開始やAIオンデマンド交通、自動運転など、新たなモビリティサービスの導入に向けた動きが活発化し、交通分野は大きな変革期を迎えています。

今後、多度津町の人口はさらに高齢化が進展し、人口は減少し続けると予測されています。『町を走る自家用車、電車やタクシーがなくなってしまうかもしれない。』『遠い先の話だと思っていたことが、実は違うのではないか。』と改めて考えさせられました。

私たちはこの会議に参加したことで、将来の多度津町における諸問題を今のうちに自分ごととして捉え、共に考えていくことが、ここに生活する者の役割だと気づきました。

今般、「地域交通」をテーマに、無作為抽出により参加した16歳から79歳まで(令和6年5月1日現在)の住民34人が委員となり、令和6年7月から10月まで全4回の協議を重ねてきました。

この提案書では、第I章で会議の概要と「自分ごと化会議」からの5つの提案を、第II章でこれからの多度津町の地域交通について取り組むべき視点を、第III章でこれまでの移動支援策の課題や改善策を、第IV章でこの町の将来のためにどのように行動するのかを考えていきました。自分ができること、地域でできること、行政の役割の3つの視点を持ち、常に考え話し合ったことで、地域の課題を自分ごと化する重要性を改めて認識しました。

これからもずっと住み続けたい町となるためにも、この提案書の有効活用を切望するとともに、地域の関係者が連携・協働し、行政が地域ぐるみで地域の交通や地域のコミュニティを支えていくことを期待します。

令和7年2月  
「多度津町自分ごと化会議」委員一同

## I 「多度津町自分ごと化会議」の概要

### ○テーマ

「多度津町における地域交通」

### ○多度津町自分ごと化会議委員

無作為に抽出し案内を送付した人数	800人
無作為抽出により応募した委員(応募率)	35人(4.4%)
参加した委員の数(合計)	34人

### ○委員一覧(音順)

秋田 翔矢	氏家 秀敏	太田 進	大林 千晶
大山 芙志子	奥田 裕久	香川 稔	北平 公是
作江 康治	千田 眞澄	高島 典義	田中 武文
筒井 英清	土井 章	西山 忠明	花島 昭子
村岡 智子	連 ゆかり		

ほか16名

※掲載に同意いただいた委員の氏名を掲載。

### ○多度津町 ※テーマである「地域交通」に関わる部局として会議に参加

- ・丸尾 幸雄 町長
- ・政策観光課
- ・高齢者保険課

### ○(有)多度津タクシー

- ・松岡 秀樹 (代表取締役)

### ○株式会社 パブリックテクノロジーズ

- ・青木 大和 (代表取締役 CEO)
- ・中田 怜(事業企画部)
- ・内記 朋治(事業企画部)

### ○政策シンクタンク 構想日本

- ・加藤 秀樹 (代表)
- ・小瀬村 寿美子 (コーディネーター)
- ・瀧口 幸恵 (コーディネーター)
- ・高橋 里穂子 (プロジェクトリーダー)

※コーディネーター:会議の進行役

【会議の紹介動画はこちらから】



(パブリックテクノロジーズの  
YouTube チャンネルにリンクします)

## ○各回の概要

- ・第1回会議:2024年7月6日(土)
  - ・実施趣旨説明(パブリックテクノロジーズ)
  - ・会議の概要説明(構想日本)
  - ・多度津町の地域交通に関する状況説明(多度津町政策観光課)
  - ・委員の自己紹介
  - ・事業レビュー:高齢者福祉タクシー事業、買い物ツアー事業、チョイ来た事業
  - ・民間事業の説明:政策観光課
  
- ・第2回会議:2024年8月12日(月・祝)
  - ・第1回会議の振り返り
  - ・自分ごと化についての講話(構想日本)
  - ・ナビゲータープレゼンテーション「新しい地域交通について」  
(パブリックテクノロジーズ)
  - ・グループ議論
  - ・「改善提案シート」の記入
  
- ・第3回会議:2024年9月7日(土)
  - ・第2回会議の振り返り
  - ・新しい地域交通施策検討の方向性について(多度津町政策観光課)
  - ・新しい地域交通事例の振り返り(パブリックテクノロジーズ)
  - ・グループ議論
  - ・「改善提案シート」の記入
  
- ・第4回会議:2024年10月14日(月・祝)
  - ・第3回会議の振り返り
  - ・提案書提出プロセスの案内/提案書提出後の動きについて(多度津町政策観光課)
  - ・提案書初稿の説明(構想日本)
  - ・グループ議論
  - ・「意見提出シート」の記入
  - ・町長挨拶/感謝状贈呈/写真撮影

## ○会議風景



## ～ 自分ごと化会議からの5つの提案 ～

### 提案

- 1 まずは、誰もが使える地域交通(デマンド交通等)の実証実験を行い、多度津町にとって持続可能な地域の交通について、私たち住民と地域、行政が共に考え、進めていく。

### 提案

- 2 新たな地域交通(デマンド交通等)が、住民みんなにとって有効な手段になるように、仕組みや行きたい場所、使いたい時間などを、自分のこととして考え、取り組んでいく。

### 提案

- 3 高齢者福祉タクシー事業を、必要な人に必要なだけ届くように、私たちの使い方の見直しをするため、話し合いを進める。

### 提案

- 4 チョイ来た事業のボランティア不足などの課題について、理解を深め、より役に立つ交通手段となるよう、ボランティア運転手や協力者を増やすほか、制度の周知を図り、活動に協力していく。

### 提案

- 5 買い物ツアー事業の周知を図り、買い物が困難な方のために活用の幅を広げていくことや、他の移動手段への活用も考えていきたい。

## Ⅱ 「これから」の地域交通について検討すべき視点

これからの地域交通を考える上で、委員の共通意見として、免許返納後の生活や、病気・怪我等があった際の移動に関する課題が指摘されました。近年、高齢者による交通事故のリスクが増加しています。政府は、認知機能や身体機能の低下による運転の不安を考慮し、高齢者に免許の返納をすすめています。しかし、多度津町では車移動が常態であり、返納しない限り不便はないのが現状です。車がない生活について、最初は実感が湧かないと言っていた委員も、この議論を通じて、今後、誰にでも起こり得る課題だと具体的に考える機会となりました。急に大怪我をしたらどうするのか、自分が家族をどう支えるか、子育て世代の負担の緩和策、自由に移動できなくなるストレスや孤立感、それぞれの生き甲斐の再考、外国人の移動手段等の話題もあり、さらには地域交通から派生し、親族以外でも気軽に頼れる地域にするにはどうするか、社会との関わりによる心身の健康の保持といった地域コミュニティのあり方にも発展しました。地域交通を自分ごととして捉え考えるためには、重要な視点だと気づきました。

また、新しい地域交通の手段として、ライドシェアやデマンド型交通等の事例について学びました。町が取り組みを前進させようと考えている意思是委員に伝わり、会議に参加いただいた(有)多度津タクシーも事業協力に前向きだということも分かったことで対話はぐっと現実的に。多度津町で実現可能か、導入のメリット・デメリットの検証、様々な状況に置かれている方にとって有効な移動手段の方法等について意見を出し合いました。これからも使いやすく安全な移動手段の確保に向け、私たちが考える具体的な意見を踏まえ、以下の通り提案いたします。

### 1. 新しい地域交通導入に向けての視点

「課題」	既存事業対象外の住民も安心して利用できる交通手段の確保。 多度津町に合う運送手段別の導入検討・効果検証。 地域住民が安心して使えるための方策。
------	---

委員からの声	
●	対象者は子どもから高齢者まで、国籍も問わず、いつでもどこでも誰でも使えるようにしたい。
●	既存の移動手段も中すばみ。新しい交通手段を開始するからには、住民、行政が協力してずっと続けていけるシステムにしたい。既存の事業とのすみ分けも行う必要がある。
●	それぞれのメリット、デメリットを明確に。利便性を伴う必要があるが、採算が合わなければならぬので難しいのではないかな。
●	近隣の事業者(スーパー、交通系)や他市と連携して、利便性の向上やドライバー確保ができるのではないかな。
●	アプリ等テクノロジーを使ったサービスでは、高齢者等が使えないのではないかな。
●	ひとりでの移動が困難で介助が必要になった場合を考えると、家の前まで来てほしい。



## 私たちが考える新しい地域交通のあり方

取り組み への アイデア	方法	<ul style="list-style-type: none"><li>● 利便性も担保できるデマンド交通で、ドアtoドアが理想。</li><li>● 地域ごとに曜日を決めて乗合にすることで利用者増を図る。</li><li>● 多度津町単独でなく近隣市町(丸亀市・善通寺市・琴平町・まんのう町)を含めた広域のデマンド交通が理想。</li><li>● どの交通手段でも、運用はスマホアプリを基本とし、アプリを使用できない人はTEL等に対応する。その場合は利用料の差別化も検討すべき。</li><li>● コミュニティバスの要否・導入効果も検証してほしい一方で、赤字が見えているため通常のやり方では難しい。</li><li>● 多度津駅を起点とする町内巡回バスも検討したい。</li></ul>
	場所	<ul style="list-style-type: none"><li>● 集合場所は、駅、自治会ごとなど、ある程度の個所設置は必要。委員等から意見をもらい、進めていくべき。</li><li>● 全世代に共通な病院、スーパー、子育て世代には塾、プールほかスポーツ施設、学校、ファミレスなど、観光客は駅や港、ホテル、観光スポット等、設置に当たっては、対象を考慮する。</li><li>● 近隣の大きな病院(香川労災病院・四国こどもとおとなの医療センター等)は直通でいけるように。</li><li>● 美容院やペットショップなど生活に密着した場所にもいきたい。</li><li>● 中心地から外れた地域の利便性の向上を図ることも必要。</li><li>● 隣接する丸亀市や善通寺市と協議して、JR 讃岐塩屋駅と JR 金蔵寺駅が利用出来るようなしくみを構築していく。</li></ul>
	利用 促進の ために	<ul style="list-style-type: none"><li>● サービス事業名が「高齢者の方」を使いがちだが、若年層が二の足を踏むように思う。「みんな etc.」にとって、という名称を使用してほしい。</li><li>● ネーミングの工夫「便利(時間・場所を問わない)」、「誰もが対象」、「言いやすさ」を考慮したものにしてほしい。奇をてらいすぎると言いづらくなる</li><li>● デマンドタクシーのラッピング(かわいい、おしゃれなど、乗りたくなるように)を工夫する。</li><li>● 周知はLINE、ホームページ、町広報、自治会回覧など広く行うべき。</li><li>● 利用の仕方には年齢別に違いがあるので、年齢別の利用例を記載して、皆に利用できるんだという意識を持ってもらう。</li><li>● 体験会の実施。自治会、幼稚園・保育園から中学校のPTA など。</li><li>● 中学校の運動会への送迎、春のさくらまつりなど季節ごとの行事に合わせて走らせる。</li><li>● 老人会や自治体主催の”湯楽里”お風呂・お昼ごはんツアーを作ってもらい(老人会として)ある一定の団体で予約の仕方や乗り方を体験する。</li><li>● 車いすの方も乗降できるような車両を導入。</li></ul>

	企業連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 多度津自動車教習所と協働することで、担い手確保の可能性があるのでないか。</li> <li>● 経営赤字部分を多度津町がすべて負担するのは財政上難しいと思う。民間企業を巻き込む案として、タクシーをラッピングして宣伝等ができれば、SDGsの17のゴールの1つである「11 住み続けられるまちづくりを」を掲げることができ、企業にもメリットがあると思う。</li> </ul>
--	------	--

## 2. 有効な移動手段確保のための

私たちが取り組むべきことに		
住民の役割	個人	<ul style="list-style-type: none"> <li>● もし実証運行を行う場合は、積極的に参加し、検証に協力する。</li> <li>● 実際に利用して、自分なりのメリット、デメリットを考えて検討する。</li> <li>● 出来るだけ利用して継続させる。</li> <li>● 広く知ってもらうため知り合いに声かけをし、乗り合い乗車をする。</li> <li>● 行きたい場所を行政に提案する。</li> <li>● 住民のネットワークを活かして、企業連携の仲介を行うこともできる。</li> <li>● 近隣の新しい地域交通について調べる。</li> </ul>
	地域	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 自治会など人の集まる場所で話し、理解してもらう。</li> <li>● 声掛けし、相乗りで利用する、乗り合い利用率をあげる。</li> <li>● 地域ごとに乗降場や曜日を定め、地域住民が集まりやすく利用しやすい環境を整える。</li> <li>● 自治会長に説明し、それぞれの地区アプリ活用の仕方を教え合う。</li> </ul>
行政の役割		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 先進自治体の成功例を参考に、早期導入に向けた計画、立案していく。メリット・デメリットを明確化して提示する。町にとってバランスがよいところを考えていく。</li> <li>● 財源を考えながら、効率の良い車の運用方法を検討する。</li> <li>● 当初導入費用、ランニングコスト等を公表して欲しい。</li> <li>● 持続可能なシステムとして完成させること。</li> <li>● 数か月～1、2年で実証、結果を検証し、実施可否・形態を判断すべき。</li> <li>● 新しい交通を考えている事を町の広報に載せる</li> <li>● デマンド交通、ライドシェア等の仕組みを住民にわかりやすく説明する。</li> <li>● 使用拡大に向けて情報提供し、住民を巻き込んだ広報活動をすべき。</li> <li>● 若い人に発信するためにも呼びかけていく方策を考える(町のLINE)。</li> <li>● アプリの活用方法をわかりやすく説明する。</li> <li>● 車及び運転手の保障、バックアップする。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 多度津のみか近隣市町と合同実施かシミュレーションし取組むべき。他市町村と連携して進めていくことが大事だと思う。</li> <li>● 運営母体の設立。個人的にはシルバー人材センター等の行政OBがいる団体がベストと思う。</li> <li>● どんなものが良いかセンスの良い人から意見を聞く。</li> </ul>
<p>その他ご意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 新地域交通の対象年齢層(重点)によって、コミュニティバスよりデマンド(バス・タクシー)を選ぶことも必要だと考える。</li> <li>● やる気がある事業者には、ぜひとも運営していただきたいと思う。</li> <li>● 交通事故の対応等、プロのドライバーなら安心して利用出来る。</li> <li>● 高齢者・交通弱者に対して色々な選択肢があるのは安心材料だ。</li> <li>● ペットと一緒に移動・コミュニケーションできる場所を作って欲しい。</li> <li>● その都度の要望も取り入れるような柔軟性をもってプログラムが組めるようになってほしい。</li> <li>● 今後、近隣の市町村との交通に関して交流ができればいい。</li> <li>● 電話やネットシステム等は、高齢者が予約できるか心配である。</li> <li>● 早く進めて第一歩を踏み出してほしい。</li> <li>● 将来的には、自動運転車の利用も検討してほしい。</li> <li>● 多度津の道は狭く、曲がっている所が多くマイクロバスでも進入が難しい。タイ国で人気のある三輪タクシー(トゥクトゥク)を導入してはどうか。多度津に行けば「トゥクトゥク」に乗れる、と話題になり、観光資源のひとつになり、若い人達の利用促進にもつながるのではないかな。</li> </ul>

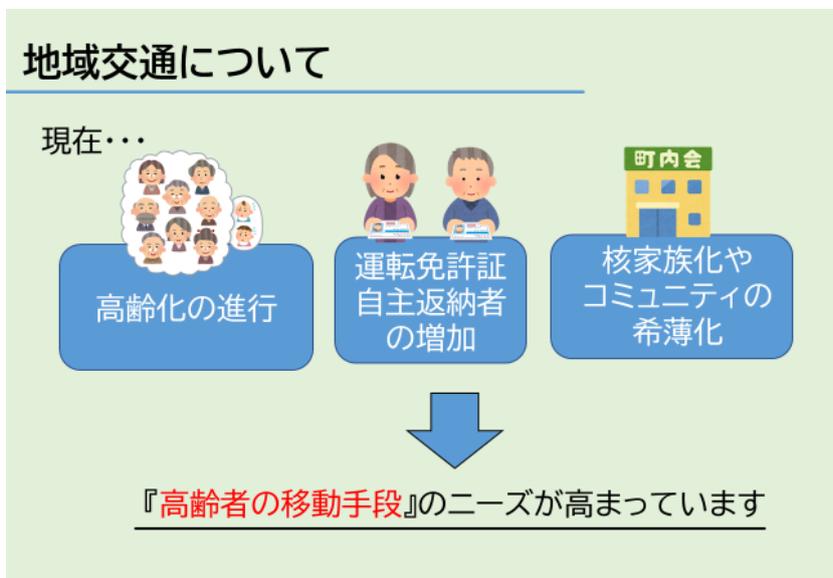
### ～私たちが使わなければ続かない～

今回の会議を始めたとき、多くの参加者の声は「今は困っていない」、「想像し難い」ということでした。確かに、会議に自分で参加できる方は自力で移動ができる方です。当事者の声をもっと聞いた方がいいという声と共に上がったのは、将来を想像しようということでした。今不便でなくても、いつか来ること。新しい交通を本当に使えるものにするためには、一人一人の住民が使ってみたり、意見を出したりして、いい仕組みになるよう協力することです。実証実験にも積極的に協力していこう、こうやって話し合える場を今後も持ちたい、等の積極的な声がたくさん上がりました。

### Ⅲ「いま」の地域交通の課題整理と改善提案

多度津町では、高齢化の進行、運転免許証自主返納者の増加、核家族化やコミュニティの希薄化により、高齢者の移動手段のニーズが高まっています。現在、町では地域交通の提供は実施しておらず、高齢者福祉施策として、「高齢者福祉タクシー事業」、「買い物ツアー事業」、「高齢者等移動手段確保事業(移動サービスチョイ来たへの支援)」という3つの事業などで移動の支援を行っています。私たちの自分ごと化会議は、まず既存の事業を知ることから始めました。

人口減少などによる利用者減、運転手の担い手不足、新しい交通手段の発展など地域交通をめぐる全国的な状況の変化や多度津町の高齢化や外国人人口の増加、また財政状況の課題もある中、行政のみでまちづくりを行うのは困難です。現在実施している事業について課題を整理し、この事業を有効に効果的に継続できるよう、自分たちができることなど解決策を取りまとめました。



# 1. 高齢者福祉タクシー事業

## 《事業概況》

- 4月1日時点で住所を有する満75歳以上の方に、タクシーチケット500円×20枚を交付。
- 対象者4,011人に対して、1回でも利用したのは2,120人と、約半数である(R5実績)。
- 外出する目的や時間に制限はなく、本人が乗れば他者の乗り合わせでも利用可能。
- 利用には申請が必要、チケットを受け取る際には役場に行く必要がある。
- タクシーのため、プロの運転で安心であり、ドア to ドアも可能で利便性がよい。
- 今後すべての免許返納者に対応するためには、運転手の確保が追いつかない可能性がある。
- 運転ができチケット不要の方にも一律に配布する一方、通院等多く利用する方は不足する状況であり、利用状況に偏りがある。

## 《課題》

タクシーチケットの過不足があり、需要に合っていない。  
 チケット配布に工夫が必要。(申請の手間、紙、使い切り防止など。)

## 委員からの声

- 本当は必要でない人が使っている一方、本当に必要な人には足りないという声もある。
- 余剰分を使い切るなどの実態がある。マナーを守って使用するべき。必要でない人は受け取らない仕組みにするべきではないか。
- どうしても必要としている人のみの配布に変えて継続していただきたい。
- 有効活用するため、何らかの条件のもと譲り渡して利用する仕組みにできないか。
- いざというときに持っているだけで安心な部分がある。
- 申請の手間やチケットの発行にかかる経費削減をデジタル化によってできるのではないか。



## 課題を解決するために

住民の 役割	個人	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 運転できる間は利用しない。</li> <li>● 家族が元気であれば家族に移動を依頼する。</li> <li>● タクシーチケットを必要な時は積極的に使う。</li> <li>● チケットが余った旨を申請、返納する。</li> <li>● (デジタル化されたときには)アプリの使用方法を周囲に教える。</li> </ul>

	地域	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域の寄り合い等で(タクシーチケットの利用のマナーを)話す。</li> <li>● 知人、地域、自治会などで相乗りし、チケットを節約する。</li> <li>● 口コミでの周知を図る。</li> </ul>
行政の役割	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 免許返納者へ優遇配布する。(10,000 円→20,000 円)チケット 1 枚の額面金額を 500 円から 100 円にして、利用しやすくする。</li> <li>● 残ったチケットの有効期限を定めず、複数年で使えるよう、制度改正する。</li> <li>● 障害者・高齢者など交通手段のない人、どうしても必要な人に優先的に配布するなど、一定の要件を満たしたものにだけ配布してはどうか。</li> <li>● 1 年に決まった枚数で、使った分だけ補充してもらう。</li> <li>● 未使用の返却金額に応じて、ポイントなど何らかのメリットを付与する。</li> <li>● 使わなかった分だけ元気なのですね等のご褒美をつくる。</li> <li>● どうしてもタクシーチケットでなければ困る人の線引きを行う。</li> <li>● 申請方法・受け取り方法簡便化・DX 化。</li> <li>● マイナンバーカード利用して個人への郵送。</li> <li>● アプリ導入など新しい仕組みに変わった場合は、自治会などで講習を行う。</li> <li>● 電子化した場合、うまく利用するための講座や教室を開く。高齢者に限らず、だれでも使いやすいものを作ってほしい。</li> <li>● 多度津町独自のアプリ、複数年使用できる有効期限→翌年もち越し。</li> <li>● スーパーなどにパンフレットを掲示し、制度の周知を徹底する。</li> </ul>	
その他ご意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 75 才以上の免許証所持者には発行しないというのはどうか。</li> <li>● 運転免許返納時には利用したいが、一万円では少額なため増額を希望。</li> <li>● タクシーチケットは何よりも使う側のマナーが大切だと考える。使い方のマナーを PR するのはどうか。</li> <li>● 持っていていつでも使えるという安心感と公平感がある。</li> </ul>	

### ～必要な方に必要な量を～

タクシーチケットの利用状況を話し合っていると、「運転ができるから全く使っていない」という方、「通院に使うので全然足りない。他の制度に該当しないので自腹である」という方、「大きな病気をして運転ができなくなった時に、初めて必要な人がいることがわかった」という方、一方で「高校生の送迎は自家用車に頼っているが、親が何かあったときに通学する手段が心配だ」という声も。

様々な実例を聞いた参加者から、対象とする人は年齢で制限するのではなく、必要な方に必要な量を配布したい。」という意見でまとまりました。

これこそ「公共の利益＝みんなのため」の議論ではないでしょうか。

## 2. チョイ来た事業への支援

### 《事業概況》

- 住民ボランティアによる支え合いである「移動サービス チョイ来た」に対し、補助金交付による支援を行っている。
- 65 歳以上、身体障害者手帳受給者、要介護認定者が利用できる(自身で車の乗降ができる方)
- 登録者は 87 人、年間利用者は 34 人。
- 週 3 回、1 日 4 便(90 分以内)があり、定められたルートはなく、町内の医療機関、商業店舗、地域の集会所等、時間内であれば何箇所でも回り、運行する。
- 利用者は、ガソリン代実費のみの負担(50 円程度)、要予約。
- 運転者は、運転ボランティア養成講座受講者で、受付ボランティアも同乗し、運転手を補助している。
- 稼働率は 90%を超えており、利用者が固定化している。
- 登録しないと利用できないが、予約が埋まっており、これ以上新規の登録はできない。
- 運転ボランティアが増えず、需要はあるが供給を増やせない。

### 《課題》

運転手不足のため、需要に応えられない。  
ボランティアに依存しているため、安心して担える仕組みが必要。  
事業の周知が不十分のため、必要な方に供給できていない。

### 委員からの声

- 運転手がボランティアなのはおかしい。ボランティアの責任が重い。報酬を払って、資格を持った人にやってもらう必要があるのではないか。
- ボランティアも高齢者が多い。自分も出来れば参加したいが、年齢的に難しい。若い人たちをもっと巻き込めないか。
- 会議に参加して初めて詳細を知った。条件は少し厳しいが、便利なシステムだ。
- 需要は多いが、担い手不足で PR しても利用できないのは残念。
- 町としてもっと事業をサポートできないものか。
- 1回あたりの行政負担費用が高すぎると思う。



### 課題を解決するために

住民の  
役割

個人

- 運転の責任感が重く、ボランティアのなり手がいないという現実を聞き、驚いた。仕事を辞めたら、ドライバー登録をしドライバー不足に貢献する。

		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 交通事故等のリスクはあるものの、ドライバー不足解消に向けて、参加してみたい。ただし、不特定の遠方の利用ではなく、出来れば同じ地域の人達の足になりたい。</li> <li>● 介助など、運転以外でもお手伝いできることはする。</li> <li>● 大変な仕事と分かったので、ボランティアをいたわる。</li> <li>● 発信して人を集める。チョイ来たの仕組みについて周囲に情報を広める。</li> <li>● ボランティアをつのる。1人から声がけしていく。口コミでの周知。</li> <li>● 利用条件、使い方等の説明をしてあげる。</li> <li>● 遠くから見守る。スーパーで出会ったら優先利用できるよう配慮する。</li> <li>● 元気なうちは利用しない。</li> <li>● 家の前まで来てもらわなくてもバス停まで行ける人は新交通を利用する。</li> </ul>
	地域	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域、地区、自治会等の単位毎にボランティアを配置し、全体をカバー出来るように協力していく、地区単位(自治会単位)でチョイ来た事業を行う。</li> <li>● ボランティア不足解消の為、地域自治会等で、実施内容、現状等を地域住民に知って貰う。</li> <li>● 地域(ごとに)必要性を判断する。</li> <li>● 自治会、老人会で発信する。人を集めるのに新しい地域交通に協力体制を求めて受け皿を考慮。世話役など相談しやすい人(役割)を作る。</li> <li>● 自治会などで運転手をできる方を登録する。</li> <li>● 運転ボランティア・受付ボランティアを増やすための周知。</li> <li>● もし、若い方を巻き込むなら、その間、子供の世話をする・食事をさせるなど、学童・居残り保育のような環境を作れば、必要とする多くの方が集まり、共助につながるかもしれない。</li> </ul>
行政の役割		<ul style="list-style-type: none"> <li>● もっと使いやすいシステムに変更するため、新交通に含めるのはどうか。</li> <li>● ボランティアの保険や事業補助を増やすなど、不安要素を無くしボランティアが増えるようにする。</li> <li>● 積極的な広報活動を行い、ボランティアを募って、拡大していく。ホームページなどで周知、PR、利用者の声を発信していく。</li> <li>● 継続すべきで、補助金を含め行政の今以上の支援が必要。</li> </ul>
その他ご意見		<ul style="list-style-type: none"> <li>● チョイ来た事業に対して確かに条件的には難題であるが大変便利なシステムであるので創意工夫をして高齢者の期待を裏切らないで欲しい。</li> <li>● どうしてもチョイ来たを利用しなければならない人の線引を考える→資料を作って周知する。</li> <li>● 利用者が多く稼働率も非常に高いので、利用可能回数を増やすためにもドライバーの募集を進め、運用車両も増やす。</li> <li>● 運転者へ日当など謝金制度を設ける。</li> <li>● 利用者の負担金を上げてはどうか。</li> <li>● ボランティアの精神的負担をチェックする仕組みが必要。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 担い手について、自動車教習所の閑散期(学生の夏休み・春休み・授業後・社会人の就業後以外)には、車・教官が空いていると思われ、有効活用できないか。ただし、ボランティアの枠組みでは成り立たないと思う。仕組みの再構築が必要。実施には規制の確認・規制緩和の働きかけも必要。</li> <li>● 若い人(30-40代)でも副業が可能であったり、時間が余ってる人がいる。そういった方に、担い手となってもらうことも有効ではないか。</li> <li>● 運転ボランティアは将来的にもっとやり手が少なくなるだろう。</li> <li>● 若い方を巻き込むという意見だが、若い方にメリットがない(子育て・仕事で忙しく空き時間がない上に、リターンがない)ので、難しいと思われる。</li> <li>● 自分としてはボランティアに名乗りを上げて良いが、80歳を超えた高齢者で、逆に利用者の立場になる。個人でできることには限界がある。</li> <li>● コールセンターを設置し細かく説明・広めていく。会員登録が必要になる。</li> <li>● 善通寺市ではデマンド型の乗り合いサービス「チョイソコぜんつうじ」を運行中。ホームページにて説明、広報している(運行主体事業者は琴参バス株式会社)。コールセンター及びウェブサイトで明確にされています。</li> <li>● 新交通が動き始めたら、順次事業を見直すことも考えるべき。</li> </ul>
--	---

### 3. 買い物ツアー事業

<b>《事業概況》</b>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 老人健康施設「湯楽里(ゆらり)」の利用者を対象に、買い物をして帰れるよう、週1回バスでの送迎を行っている(社会福祉協議会への委託事業)。</li> <li>● 60歳以上の湯楽里利用者が利用可能。月平均49名が利用している。</li> <li>● 週1回、湯楽里から出発し、商業店舗を訪れ、自宅まで送迎する(湯楽里まではバスあり)。</li> <li>● 湯楽里の利用料 300円が必要。予約不要。</li> <li>● 運転手は社協職員またはシルバー人材センター派遣。</li> <li>● マイクロバスまたは大型乗用車で運行。1回の定員は28名。</li> </ul>

<b>《課題》</b>	<p>事業が周知されていないため、必要な方に仕組みが届かない。 湯楽里の利用者に限定されているため、必要な方が使えない。 現在の仕組みは他の移動手段と重複し、再構築する必要がある。</p>
-------------	--

<b>委員からの声</b>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 事業があることを全く知らなかった。</li> <li>● 湯楽里の利用者のみに限定され、運行は週1回、限られた人しか利用出来ない。</li> <li>● これはこれで湯楽里利用者の買い物のための交通手段として継続すべきだと思う。</li> <li>● バス停やルートの見直しで、車両の空き時間の有効活用ができるのではないか。</li> </ul>



課題を解決するために		
住民の 役割	個人	<ul style="list-style-type: none"><li>● 近所で声かけ合ってなるべく利用できるようにする。</li><li>● 知り得た情報は自分から発信する。買い物に困っている人の声がきこえたら積極的に声をかけて協力体制をつくる。</li><li>● 住民のネットワークを活かして協力していく。</li><li>● 使いやすくするためのアイデアを出す、意見を言う。</li></ul>
	地域	<ul style="list-style-type: none"><li>● 自治会長ほか役員、自治会等の住民に対し、買い物ツアーのバスが運行されていることを伝えていく。</li><li>● 地域として発信していく、回覧板で周知する。</li><li>● 買い物ツアーのバスが運行されていることを周知していく。</li><li>● 地域ごとにバスを出すと良いのではないか。</li><li>● 例えば買い物代行(ヘルパーさんのお仕事?)依頼があれば出来るようになれば良い。</li><li>● 民間業者と提携(スーパー等)していく。</li></ul>
行政の役割		<ul style="list-style-type: none"><li>● 情報を広めて、利用者に内容を理解してもらう。積極的な広報活動が必要。</li><li>● さらに利用者が増えるように PR に力を入れていく。</li><li>● 民間企業を巻き込み、スーパーが住民の送迎するよう協働を持ちかける。スーパー側も、チラシに、多度津町民お買い物ツアーデー(特売日)などと、特売と地域貢献をアピールする機会となり、Win-Win になる可能性がありそうスーパーなど商業施設と連携すること。</li><li>● 湯楽里利用者以外の対象者を広げる。</li><li>● 空き時間が多い時に利用することで利益があるようにする。</li><li>● ツアーバスの乗降場所を増やす。</li><li>● スーパーが少ない地区には、地区で曜日を決めて、買い物ツアーが実施できたら、住民も助かる。</li><li>● ネットワークを広げる。他の町へ広げていく(ネットワーク)。町の協力体制をつくる。支援をあおぐ。</li><li>● 湯楽里の巡回バスを新交通と併用できないか検討。</li></ul>
その他ご意見		<ul style="list-style-type: none"><li>● 買い物ツアーに関しても内容を知らなかった。反面、健康で良かった！出来るだけ自分で出来ることを長く、多くキープしていきたい。気ままに好きな物を好きな時だけ買えるような健康でいること。</li><li>● 小さなコミュニティは難しい問題が起こりやすいと実感しています。地域の行事で協力し合っても影で色々ある。調整に四苦八苦することもある。</li><li>● 新交通の停留所を湯楽里やスーパー等に指定すれば、買い物ツアーは必要なくなるのではと思う。</li></ul>

- 買い物ツアーは、新交通が稼働したら、多くの方がそちらに移っていき、見直しが進むと期待している。
- 女性ドライバーの導入も検討。
- 月に1回は老人会や自治体での”買い物ツアー”を行ってほしい。

### ～外出することが生きがいや社会とのつながりになる～

委員の中には福祉関係のお仕事をされている方や大きな病気で入院をして、健康の大切さを実感している方など様々な背景の方が参加されました。

病気や高齢になり家にこもりがちになる“閉じこもり”や“社会的孤立”が社会問題になっています。ひとり暮らしの方は、自分で買い物などに行かなければならないため、外出頻度が減ることは少ないといわれています。しかし、同居の家族がいると外出の必要に迫られることが少ないため、閉じこもる人が増えると言われていています。誰もが寝たきりや要介護になりたくないと思っても、閉じこもりがそれを促進させてしまう恐れがあるということです。

寝たきりや要介護状態になるのを早めないためにも、外出して他者とコミュニケーションをとることが必要なのではないのでしょうか。

## IV このまちのためにどう行動するか

高齢になっても障害があっても、送迎が必要な状況になっても、いままで暮らしてきた地域で安心して暮らし続けるには、「移動・外出」が欠かせません。これからの人口減少・高齢社会において、重要な地域課題のひとつだと認識を新たにし、自分のこととして議論してきました。

その解決のための話し合いの中で、多度津町に住む私たちにとって大切にしたいことや、また地域交通だけにとどまらない、まちを想う大事な意見がたくさんありました。地域をめぐるさまざまな課題は、将来の多度津町のあり方そのものです。

私たちはこのまちのためにどう行動するか、次のように考えました。

### わたしたちは、何を大切にどう行動すべきか

- 綺麗な空気の多度津町。地域温暖化防止の一環として「めざせ CO2 排出削減！」の一つとして自家用車使用を少なくしたい。そのためにライドシェアで足の確保は無理でしょうか？効果は上げさとしてもそのような意識を持って行動したいと思う。
- 連帯感を作り上げられれば、色々な事柄が良い方向に回るようになるのではと思う。
- 1人では何も出来ない。出来たとしても知れている！地区地域に活力が出るように考える。
- 個々で動くようになった現在、昔のように横のつながりができるようになれば全てが良くなる・動き出す。→楽しい町、面白い町→長く住みたい(老人元気)→移住したい。
- 地域ぐるみで行うことが大切と思う。
- 多度津町だけでなく、交流の場を持ってほかの市町村を巻き込んでいくのも方向と考える。
- 道路で遊んでいる子どもたち、見て見ぬふりをせずに大人が注意する。
- よい所はとり入れ、また改善していくためには、新しい考えも必要と思う。
- 多度津町の未来は、平安時代の昔から弘法大師、玉依御前にゆかりがあり、善通寺とともに由緒ある地として知られているが、未だに全国的に知名度が薄い。名所、史跡をもっと PR して欲しい。今はジャパニーズソウル、カルチャーを外国人は求めている。故に俳句、川柳もお忘れなく。
- 今後も自分ごと化会議のように、官民一体となり、より良い多度津町発展のため、協力を惜しまないこと。

## 考えていきたいこのまちの課題

- 自分が免許返納となった場合を考えると、地方にいる怖さしがなく、若い方の都会への転出に歯止めがかからなくなる(現に今がそうになっています)と思う。今後、規制緩和も含めた大きな変化により、多度津町が地域交通のリーディング自治体になることをと大いに期待している。わが町を自慢できるし、転入が増えると思う。
- 今後、小学校の統廃合により児童の移動手段も必要になる。
- 信号のない交差点も課題である。
- 昔ながらのご近所づきあいが少なくなってきた。コミュニティの醸成が必要だと考える。
- 自治会(班)が減少している。新築等は増えているが入会されず、高齢のため退会されてしまう。
- 農地の荒廃、空き家の増加などは、地域の問題点と考えている(将来が心配)。
- わが地区にも空き家が増えているが、所在が分からない人もいる。どこに行ったか分からない、施設に入っているかもしれない、近所の人に聞いても知らない、自治会長に聞いても知らないで困ったことがあった。町にも聞いたが、個人情報で教えて貰えず、最終的に民生委員にお願いして、やっと所在がつかめた。連絡したくとも出来ない、困った時代だ。
- 南海トラフ等が起こったときの防災避難場所は、多度津中学校であり、足の弱い人には厳しい遠さである。元の庁舎を避難場所として考えられないのか？老朽化して難しいというのなら、避難タワーの設置なども考えてほしい。それと同時に人が集まりやすい施設を考えてほしい。庁舎が移転してから、驚くほど閑散としている。活性化にテコ入れをしてほしい。
- 駅前広場が整備されたが、憩いの場には落ち着かない。日差しを遮る場所もない。考えてください。元の庁舎をどうするのか計画はあるのか？庁舎を地産地消の道の駅のようなもの複合商業施設みたいなものにするとか。有効活用は出来ないのか？
- 駅前広場は若い人が使用できるようにしてほしい。たとえばアマチュアバンド・ダンス等。マルシェの回数を増やすなど。勿体無いので活用してほしい。東側駅前広場も整備してほしい。

## V 自分ごと化会議に参加して、変化したこと

アンケートを通じて、各委員が自分ごと化会議に参加して地域交通に対する意識が変わったことや気づきをまとめました。

### 1. 自分ごと化会議に参加して変わったこと(アンケート結果から抜粋)

- 新聞等での関連情報が気になる様になった。
- 自分にできることを、小さなことからでもコツコツしていこうと思う。
- 知らなかった点、これからの町の取り組みや方針が聞けて自分も考えが変わった。
- まだ 60 代後半、まだまだ元気で居られると、先の事はあまり考えたことはなかったが、この先 10 年後、20 年後は自分の番だという認識が深まった。
- 他の地域の交通状況のニュースや新聞記事を意識するようになった。また多度津のために何ができるかな?と考えるようにもなった。新しい事業を考えるのはとてもわくわくすることだった。

### 2. 会議全体を通じた感想やコメント(アンケート結果から抜粋)

- 異なる世代の方、異なる意見の方と話すことができよかった。「対話」の大切さを感じた。今後もこのような場が開催されることを期待する。
- いろんな意見が聞けて参考になった。多度津町に対する熱い想いを持った参加者が多かった。
- 参加しなければ考えることもなかったと思う。様々な年齢の人とお話しする機会はとても私にとってためになった。
- 今ある事業にも、課題はたくさん出たが、良いところもたくさんあって、なくてはならないものになっている。そこを、大切にしつつ、ブラッシュアップして、さらに新しい交通もふくめて、誰もが住みやすい、住みたくなる町、帰ってきたくなる町になったらいいなと感じた。

### 3. 委員それぞれにとっての「自分ごと化」とは(アンケート結果から抜粋)

- 行政にまかせっきりでなく、住民・個人ひとりひとりやってほしいこと、意見など話し合い、実現していくこと。
- 未来の自分が交通弱者になったとき、どのような地域交通があればよいか、考えるようになった
- 今は運転もするし、困っていないが、いざというときに、みんなが使いやすいものがあればと、いろいろと自分なりに考えることができた。
- こういう施策は行政が決定して実施するものであると、他人事のように考えていた。今回新しい施策を立案するに当たり、一人の住民でありながら、参画出来た事は有意義であり、良かったと思う。無関心な心から、本当に自分事として考えられたと思う。

# 自分ごと化会議

私に関係ある？ ある！